

第2回薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動表彰

伴侶動物由来の薬剤耐性菌の分離状況および薬剤感受性率の報告活動による薬剤耐性菌を減らすための取り組み

株式会社サンリツセルコバ検査センター

●活動概要

薬剤耐性菌分離状況について平成17年より解析を行い、各学会および各地域の獣医師会等の団体において報告・講演を実施しました。また、動物病院毎の薬剤感受性率（アンチバイオグラム）を提供することにより、薬剤耐性菌の減少に寄与することができました。また、獣医臨床感染症研究会の事務局を担当し、獣医師、動物看護師および一般の方に伴侶動物（ペット）の薬剤耐性菌の現状と対策について普及活動を行いました。

●活動内容

医療分野の薬剤耐性菌は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)による院内感染が長年の問題でした。近年においては、バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)、多剤耐性緑膿菌(MDRP)、多剤耐性アシネトバクター(MDRA)、また、腸内細菌科細菌においては基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌(ESBL)やカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)といった細菌による院内感染が増加傾向にあります。医療分野で問題視している多剤耐性菌の多くは伴侶動物医療分野では流行していないものの、ESBLとメチシリン耐性ブドウ球菌(MRS)については医療分野より高率に検出しています。今回、薬剤感受性率のデータから抗菌薬の慎重使用により耐性菌の減少に努めた試みについて紹介します。（表1、2）

伴侶動物(犬・猫)は家族の一員として緊密な関係となっており、人と同様な先進的な抗菌薬治療を実施しています。このような背景から伴侶動物における薬剤耐性菌の分離状況および薬剤感受性率を把握することが必要となっております。弊社はこの活動を継続していきたいと思います。

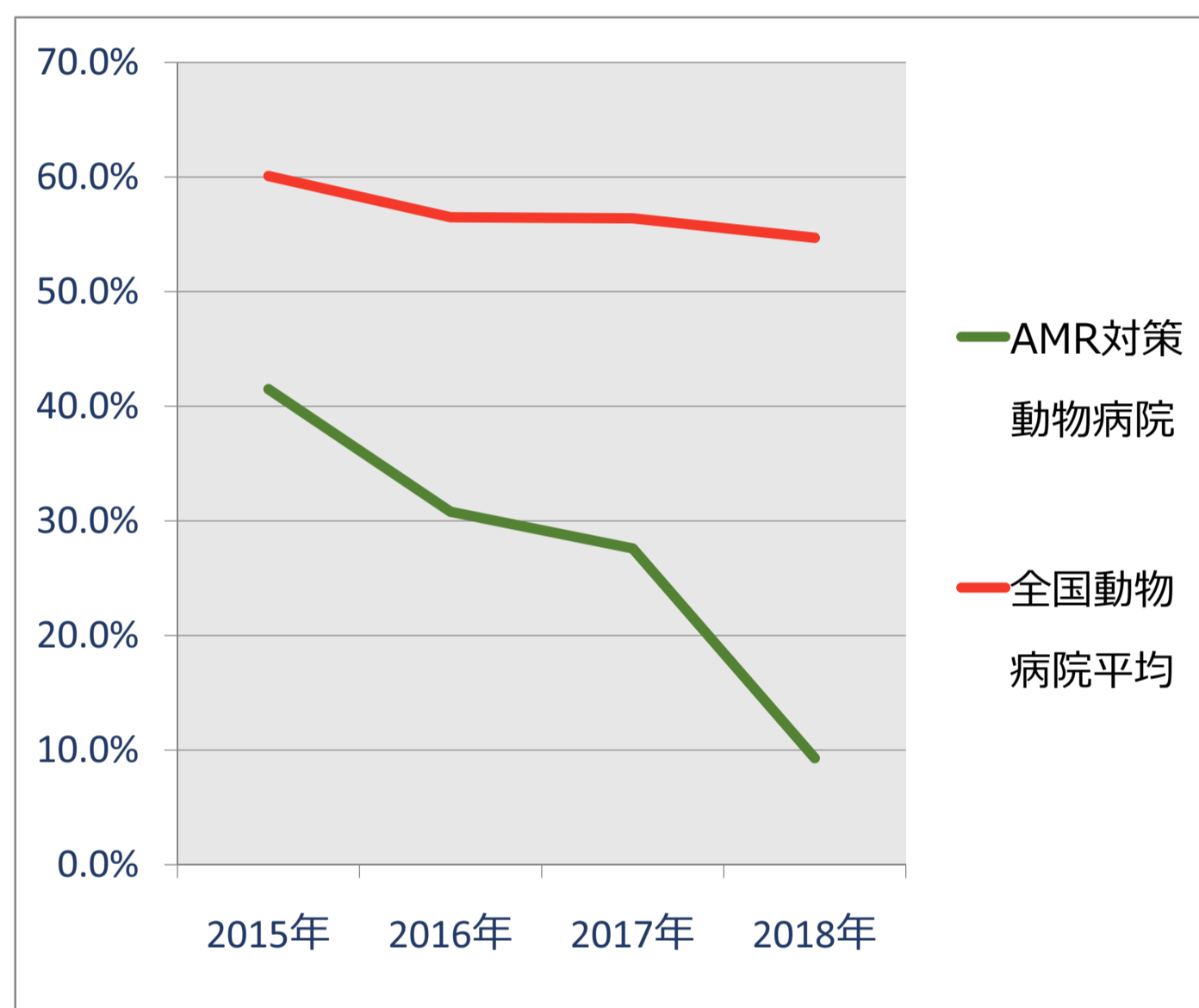


表1. 薬剤感受性率から抗菌薬適正使用によるメチシリン耐性ブドウ球菌減少率

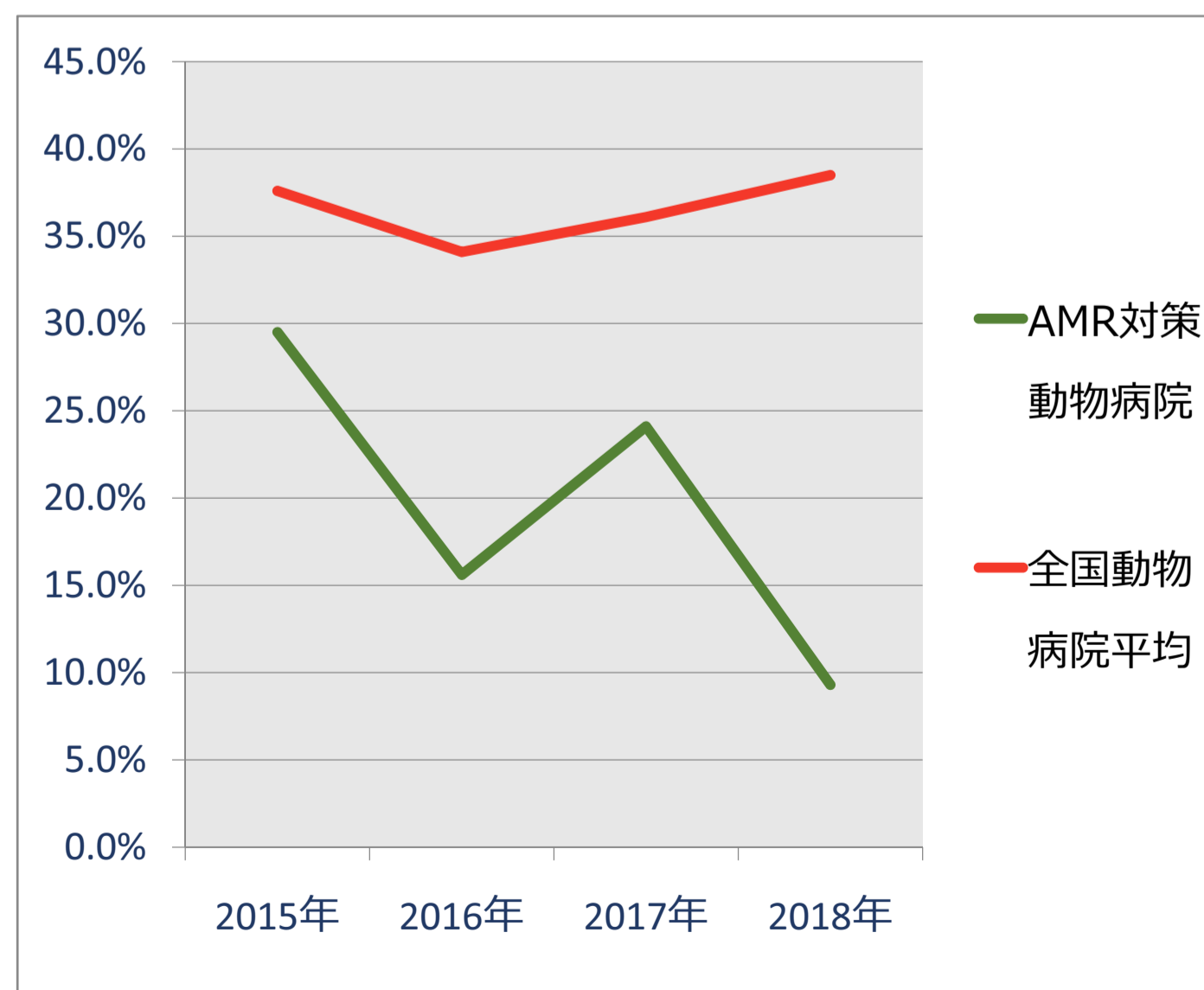


表2. 薬剤感受性率から抗菌薬適正使用による大腸菌ESBL減少率

※2018年度は1月から6月集計